

ガイドラインを活用するためのポイント

小野 克重
ONO Katsushige

Points

- ✔ 不整脈薬物治療ガイドライン（日本循環器学会、他）が2020年3月に改訂された。
- ✔ 抗不整脈薬の分類はVaughan Williams分類に従った。
- ✔ 推奨クラス分類（I, IIa, IIb, III）とエビデンス分類（A, B, C）を明記した。
- ✔ 抗不整脈薬の薬物動態とその副作用を詳解した。

はじめに

日本循環器学会の「不整脈薬物治療に関するガイドライン」は、2004年に初版が公表され、2009年に改訂が行われた。このガイドラインはSicilian Gambitの考え方に基づき、論理的な薬剤選択を基本とした内容であったが、実際の使用に際し、判断の基準が複雑となり、利用方法に戸惑いが生じるという欠点を有していた。すなわち、治療薬の選別や決定の拠り所が、それぞれのもつ薬理作用に従って決められるため、抗不整脈薬の薬理作用の十分な理解がこのガイドラインの運用の根本とされた。

その一方、抗不整脈薬の薬理作用の応用や理論的実践のみでは必ずしも正しい治療に結びつかないことも経験されるようになった。また、近年では欧米諸国を中心として、大規模なランダム化比較試験（randomized controlled trial；RCT）で明らかになったエビデンスに基づき、不整脈薬物治療の実績を重視したガイドラインが発行・利用されているが、わが国の実情とは異なるため、直接その結果を日本人にあてはめることができないことも懸念される。これらの問題を解決するため、わが国独自の新たなエビデンスが構築されつつある。2020年3月に改訂

された不整脈薬物治療ガイドラインはこれらの海外・日本のエビデンスを精査して現時点で実臨床に最適であり役立つものに拠り所を求め、かつ不整脈薬物治療を実践するうえで必要とされる薬物の作用機序や薬物動態の特性の理解を加味することで、有効かつ安全な治療を実践するために必要不可欠な情報を提示した。ここでは、新しいガイドラインをどのように活用・利用するかについて具体的に使用方法を概説する。

ガイドラインの読み方

日本循環器学会と日本不整脈心電学会は不整脈の定義を以下のように定めた。

「不整脈とは、心臓の拍動が不規則のもの、速くなるもの、遅くなるものを指し、治療を必要とする場合と必要をしない場合がある状態である。」

したがって、不整脈は直ちに治療の対象となるわけではなく、治療によって症状が改善し、かつ患者によって有益な結果がもたらされる場合に限って施行されるものである。最適な不整脈薬物治療のためにはその拠り所となる指針が必要であり、治療の最新の知見をわかりやす